

令和6年度 府立東舞鶴高等学校 浮島分校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（実施段階）

スクールのミッション	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>一人ひとりに応じた教育活動を行う普通科を設置する夜間定時制課程の高校として、学習意欲の向上や基礎学力の充実を図り、社会性を身に付けながら能力を最大限に伸ばして進路を保障し、社会に貢献できる自立した人材を育成する。</p>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」を充実させることにより、生徒が主体的に学ぶための姿勢やスキルを高めることができた。 担任及び特別支援教育コーディネーターを中心に「個別の指導計画」を作成し、指導・支援を計画的に実施することができた。 学校行事等において、新型コロナウイルス感染症感染予防対策により制限されていた内容を復活させ、学校行事を充実させることができた。 	<p>重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した授業の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒の個別最適な学びの具現化 体験的な学習や探究的な学習等の実施・充実
<p>スクールのポリシー</p> <ol style="list-style-type: none"> 育成を目指す資質能力に関する方針 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が、社会の一員として自立し働くための基礎的な知識・技能や素養を身に付けられるようにします。 生徒が、自己理解を深め、自ら考え行動したり挑戦したりする姿勢を身に付けられるようにします。 生徒が、多様な個性や思いを持つ人と協力する態度やコミュニケーション力を身に付けられるようにします。 教育課程の編成及び実施に関する方針 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分のできることを見つけ、各自のペースで前向きに過ごす高校生活を創り出すように支援します。 学びのリスタートや学び直しを重視し、生徒が基礎・基本を確実に習得できる授業を実施します。 体験的、協働的で生活力につながる学びを推進します。 学校全体で協力し合い、生徒が自分たちで創り上げる特別活動を実施します。 生徒が自らの明るい未来を信じ、主体的に進路を切り開くキャリア教育を推進します。 入学者の受入れに関する方針 <ul style="list-style-type: none"> 各自が持つ力を信じ、あきらめず、投げ出さず、学び続けようとする人を待っています。 自分のペースを大切にしながらも、学校に通うことが楽しいと思える人を待っています。 多様性を受け入れ、豊かな人間関係を作り、自分も、友人や家族も大切にしようとする人を待っています。 	<p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒の学力についてある程度把握することはできたが、生徒の学力に応じた学習課題の設定が困難で、効果的な学習指導方法を探究する必要がある。 生徒が職業観を深めるためのキャリア教育を、講演やワークショップ等を実施して充実させる必要がある。 ICTを活用するための研修を充実させることにより、教科指導等でさらに実践していく必要がある。 	<p>重点2 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 「一人も取り残さない」という理念を具現化する柔軟で質の高い学びやキャリア教育の開発 社会的自立に寄与する健康・安全教育の実施・充実 <p>重点3 教育DXの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革 BYOD時代にふさわしい教職員・生徒の資質の向上及びそのための環境整備 <p>重点4 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実 生徒の主体性を育てる取組の開発・充実

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点1 学びに向かう力の育成と、基礎・基本を重視した授業の推進	(1) 生徒の個別最適な学びの具現化	生徒個々の学力に応じた学習指導を目指して、学習に向き合う基盤を育むため、学力不振生徒に対する計画的な補習指導を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力に課題のある生徒には、課外時間の補充及び長期休業期間を活用した勉強会を実施した結果、学力不振による単位不認定者は出ない見込みである。また、大学への進学を希望している生徒には、授業前後の時間を活用し、進路実現へ向けた指導を行っている。 課題学習では、選択したテーマ設定による少人数班での探究活動を行い、自主的学習活動が育まれた。授業内に探究成果を発表することで、発表者と聴講者のコミュニケーション能力が伸長した。 基礎学力補充の継続と充実が今後の課題である。
		授業規律を確保し、基本的学習習慣を定着させるために、授業における生徒の学習行動（聴く、書く、考える等）を明確化した授業を実施する。	B		
		生徒が達成感の得られる学習を実現させるために、定期考査等の結果を基に、生徒の学力に応じた学習課題設定を計画した授業を実施する。	B		
	(2) 体験的な学習や探究的な学習等の実施・充実	主体的な学びにつながる授業を目指して、生徒自らがテーマを設定し、調べる機会を増やした授業を実施する。	B	B	
基本的な探究方法を生徒が身につけるだけでなく、相手に伝えることまで想定して、探究を深めるため、充実した探究の時間を実施する。	B				
重点2 生徒一人ひとりのニーズを踏まえた教育活動の推進	(1) 「一人も取り残さない」という理念を具現化する柔軟で質の高い学びやキャリア教育の開発	進路希望調査や面談等により、生徒の進路希望を早期に明確化し、生徒一人ひとりの進路希望に対応した進路指導を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査、二者面談及び三者面談等によって生徒の進路希望を明確にし、希望に沿った進路指導を実施した。また、卒業生による職業に関する講演会、外部講師による労働法規に関する講演会によって、就職や勤労に対する意識が向上した。 希望する職種や条件に合致する就職先がないため就職先未決定の就職希望者があり、進路希望の100%実現に至らなかった。 SSTは、時間的制約により実施できない時期があった。 外部講師を活用して健康・安全に関する講演会を実施し、生徒の意識を向上させることができた。 保健だよりを毎月発行し、生徒の啓発に活用した。アンケートを実施し、生徒に結果を還元することで健康に関する意識が向上した。
		職業や勤労に対する意識を高めるため、外部講師による講演や総合的な探究の時間を活用したキャリア教育等を実施する。	B		
		4年生については、進路希望に応じて模擬試験を実施するとともに、学習指導、面接や作文等の指導によって進路希望の100%実現を目指す。	C		
	(2) 社会的自立に寄与する健康・安全教育の実施・充実	過年度の取組により定着しつつあるソーシャルスキルトレーニング（SST）をさらに充実させるために、ホームルーム以外の時間も活用してSSTを実施する。	B	B	
		健康・安全に関する理解を深めるために、外部講師を招いて健康・安全に関する講演会を実施する。	B		
		健康に対する意識を高めるため、アンケート等により健康に関する様々な調査を行い、「保健だより」等によって生徒へ還元する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
重点3 教育DXの 推進	(1) ICTを活用した学校運営の改善及び持続可能な働き方の改革	出欠席状況に関して、指導・支援を要する生徒に即応して対応できるよう、校務システム及び他のICTを活用した出欠席管理を実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒欠席連絡(Excel)を活用し、確実な欠席連絡を実現できた。 Teamsを活用した連絡や情報共有の回数が多くなり、着実にペーパーレス化が進んだ。学校運営に有効なアプリについては、引き続き模索していく必要がある。 授業におけるICT活用については、一定の水準までは達しているものの、生徒の端末操作能力の格差を解消できておらず、更なる発展的な活用には至っていない。したがって、ICTの発展的活用の交流を主目的とした公開授業は実施できなかった。 新しいアプリ活用やよりよい活用法等についての交流は今後の課題である。
		校内の情報共有やペーパーレス化をさらに推進するため、Teamsを活用する機会を増やすとともに、学校運営に役立つ他のアプリについても積極的に活用する。	B		
	(2) BYOD時代にふさわしい教職員・生徒の資質の向上及びそのための環境整備	ICT活用法を交流し、個々のICT活用スキルを向上させるため、ICTを活用した校内公開授業を計画的に実施する。	C	C	
		生徒のICT活用を日常化するために、ホームルームでの連絡事項や授業での資料等の配布にはTeams活用を標準化する。	B		
		MDM廃止にともない、アプリ等がより有効に活用できるよう、ICT使用に関する規定を検討の上、改善する。	C		
重点4 コミュニケーションを大切にした生徒指導の推進	(1) 生徒の内面や生活状況等の深い理解・把握に裏付けられた指導・支援の充実	生徒一人ひとりの状況や個別の指導計画について全教職員が共通理解を図り、組織的、計画的な指導及び支援を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に個々の生徒の状況についての情報交換と情報共有を行い、必要な生徒に対して個別の指導計画を作成しることにより、組織的な生徒への指導、支援が実現できた。 体育祭、遠足等の事前アンケートや事後アンケートを実施することにより、生徒の主体的に取り組む意識が向上した。 両丹定時制通信制総合体育大会に学校全体で出場し、各種目で良好な戦績を収めた。事後アンケートでも生徒の高い満足度が得られた。
		あいさつや言葉遣い等、社会人としての基本的なマナーを身につけるため、ソーシャルスキルトレーニングと結びつけた生徒指導を実施する。	B		
	(2) 生徒の主体性を育てる取組の開発・充実	生徒が主体的に活動する学校行事とするため、生徒会を中心とした、事前・事後アンケートや他学年との交流を実施する。	B	B	
		生徒の課外活動への関心・意欲を高めるため、両丹定時制通信制高等学校総合体育大会への全員参加を実施する。	A		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>○本校分校ともに各教育活動において成果をあげており評価している。 ○授業改善や支援を要する生徒への対応等の取組は評価している。今後も「学習者としての目線」を意識した「個別最適化」の授業及び各教育活動に取り組んでほしい。 ○浮島分校については、落ち着いた雰囲気での教育活動が行われている。分校の魅力を積極的に発信することが必要ではないか。 ○学校DX化は、今後の教育活動の基礎を形成する最低限の取組なので、次年度も重点的に取り組んでいただきたい。 ○在籍する生徒の実態を確実に把握し、学習指導・進路指導・生徒指導を一体的にとらえた丁寧な支援体制・指導体制の構築を目指してほしい。</p>
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<p>○基本的には令和6年度の学校経営計画を基礎とし、各教育活動において前年度以上の成果があげられるよう具体的方策を検討する。 ○「生徒の個別最適な学びの具現化」を更に進めるため、「学習者としての目線」を意識した授業計画及び教育活動計画を検討する。 ○学校の落ち着いた雰囲気を保つため、ソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施できるよう教育計画を検討する。 ○学校内部の状況が外部からも把握できるよう、学校ホームページの活性化等広報推進計画を検討する。 ○前年度低調であった学校DX化推進の取組を強化するため、教務部及びICT教育推進会議を中心に確実に実行な学校DX化推進計画を検討する。 ○在籍する生徒の実態を確実に把握し、学習指導・進路指導・生徒指導を一体的にとらえた支援体制・指導体制を構築するため、生徒の指導・支援に関する組織的活動計画を検討する。</p>